

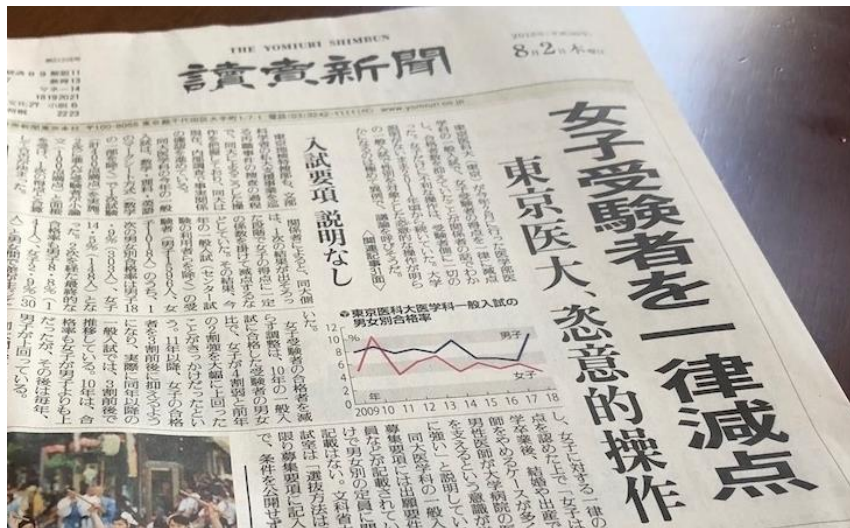
女性医師が働きやすい 環境づくり

—愛知医大病院の取り組み—

水野宏胃腸科内科 （愛知医大消化管内科非常勤講師）

水野真理

医学部入試における女子受験者問題

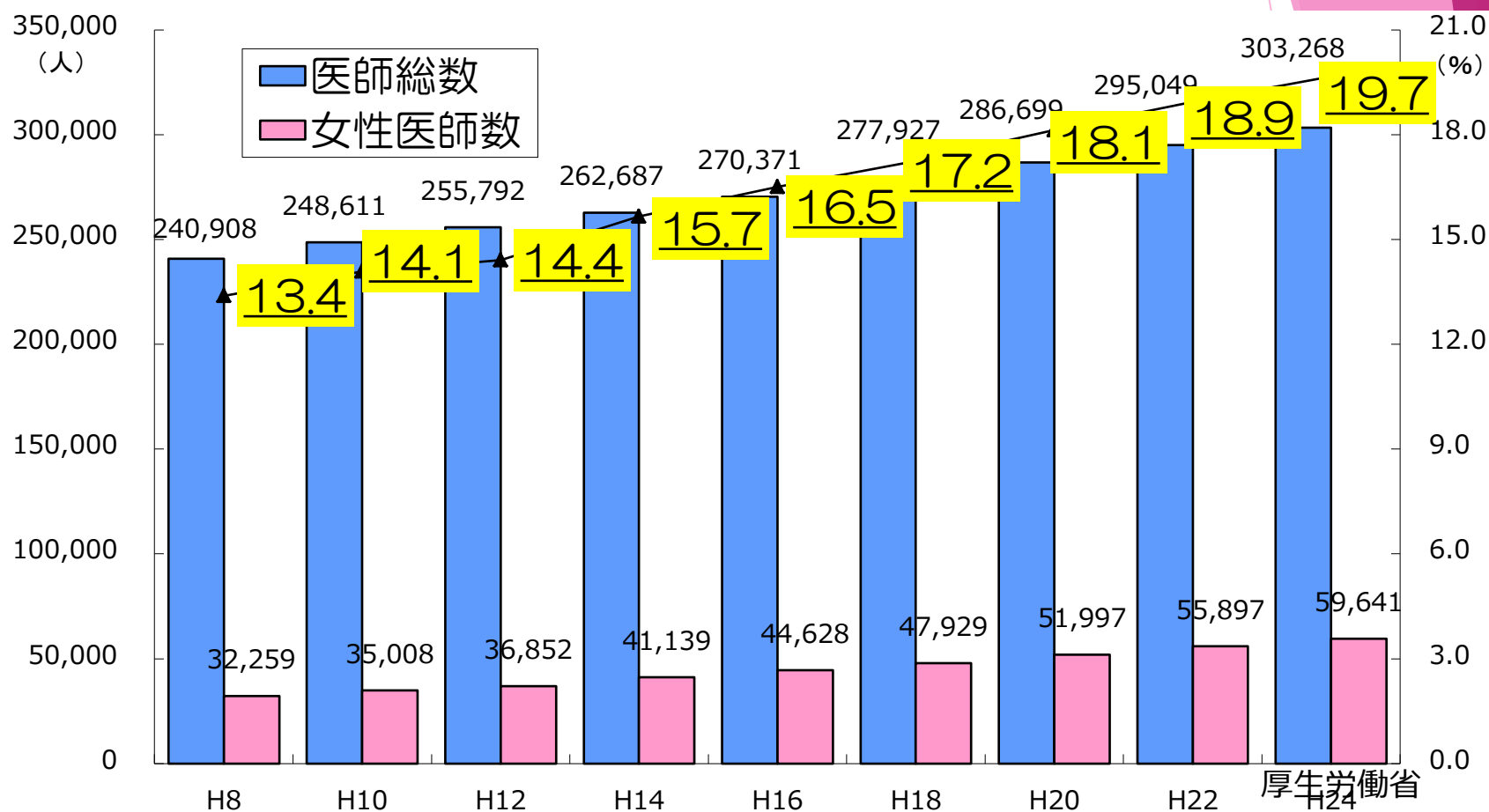


医学部

	大学 [学部]	%
1	佐賀大 [医]	44.7
2	愛知医科大 [医]	43.0
3	北里大 [医]	41.9
4	島根大 [医]	41.2
5	愛媛大 [医]	40.8
	金沢医科大 [医]	40.8

「大学ランキング2019」（朝日新聞出版）から医学部医学科女子学生比率ランキングを掲載した（17年5月1日現在。1～6年生合計。看護学科、保健学科は含まず。東京女子医科大を除く）。

女性医師数の推移



平成24年 診療科別 医師男女比

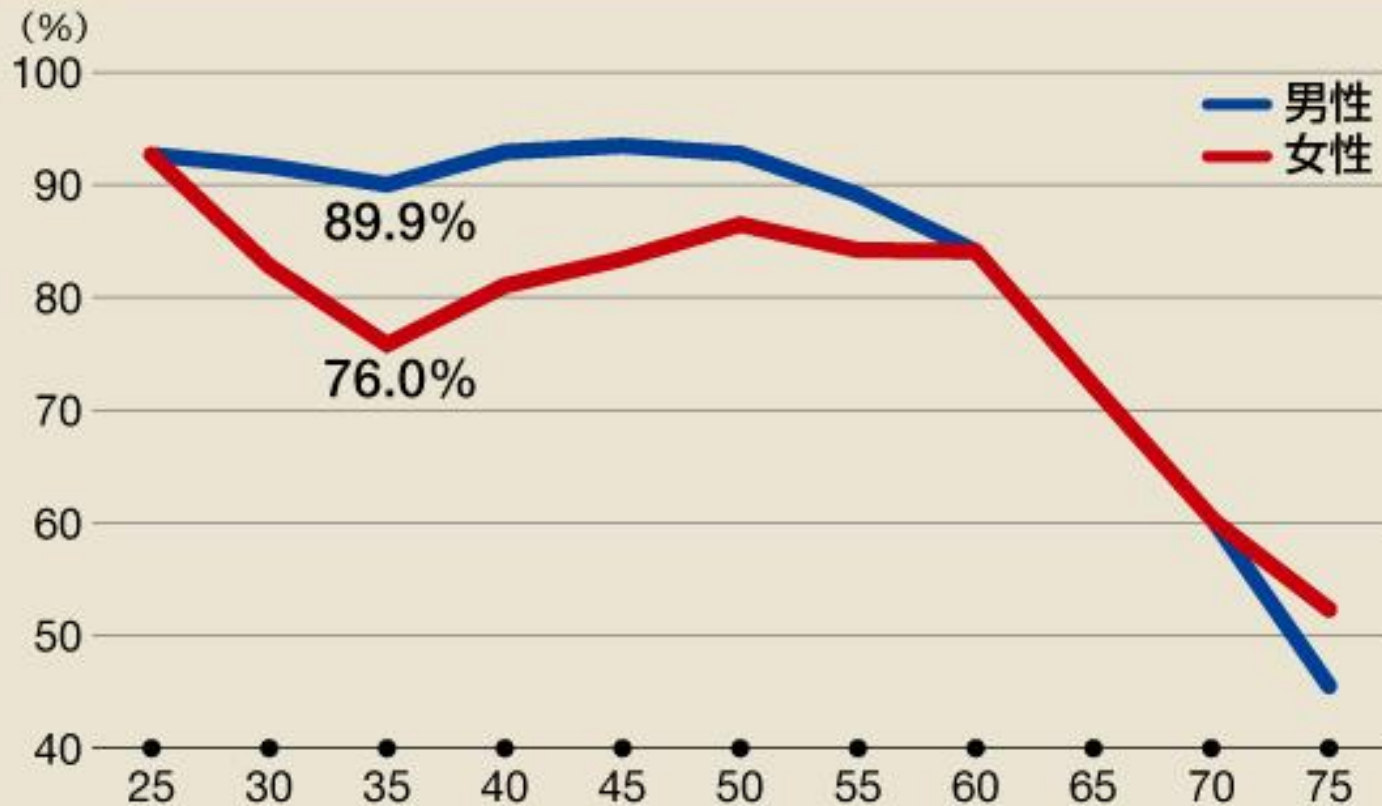
女性の割合が多い診療科

1位	44.3%	皮膚科
2位	37.5%	眼科
3位	36.8%	麻酔科
4位	33.7%	小児科
5位	31.5%	産婦人科

女性の割合が少ない診療科

1位	4.4%	整形外科
2位	4.9%	脳神経外科
3位	5.0%	泌尿器科
4位	7.1%	外科
5位	11.5%	救急科
(6位	16.4%	内科)

女性医師の就業率のM字カーブ



(注) 医師が25歳で卒業すると仮定した場合の就業率

(出所)「日本の医師需給の実証的調査研究」(主任研究者 長谷川敏彦)

愛知医大病院の診療科別女性割合

診療科別	男	女	計	女性割合
総医師数（研修医除く）	446	176	620	39%
消化管内科	22	9	31	29%
肝胆膵内科	10	2	12	17%
消化器外科	11	1	12	8%

糖尿病内科	10	14	24	58%
麻酔科	16	21	37	57%
皮膚科	9	10	19	53%
産婦人科	9	8	17	47%

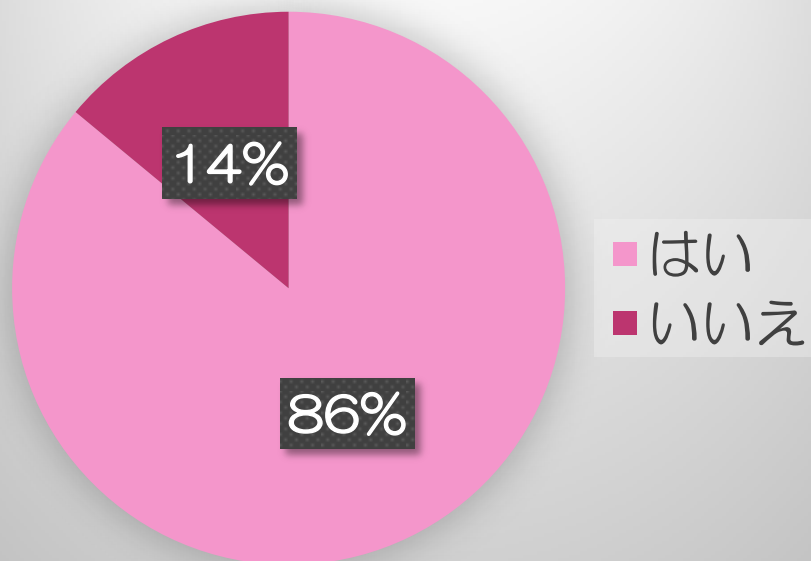
女性医師が働きやすい環境づくり のためのアンケート

< アンケート実施内容 >

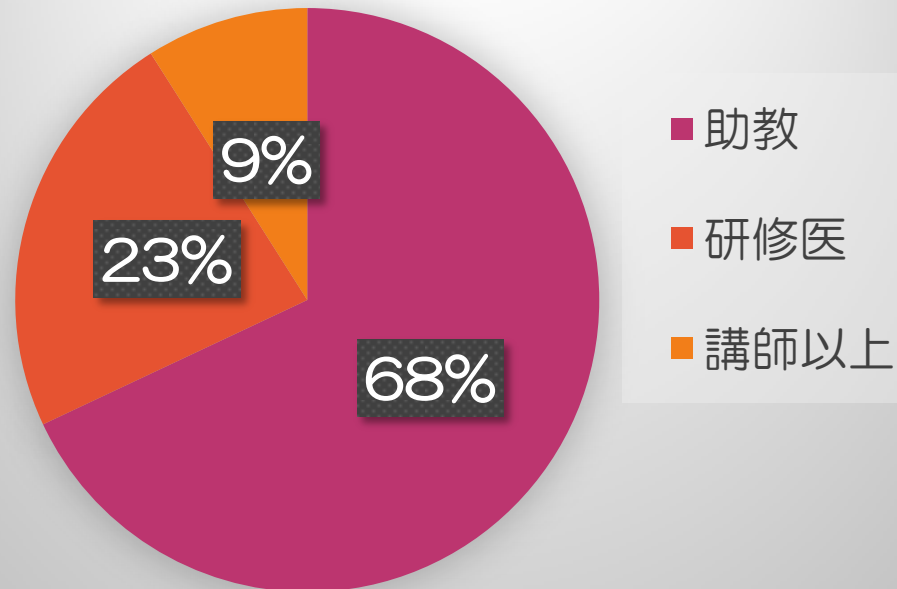
- (1) 実施期間 平成 30 年 3 月 15 日 (木) ~ 3 月 29 日 (木)
- (2) 対象者 愛知医大病院 臨床系女性医師：153 名
(産休・病欠のため回答不可：10 名含む。)
- (3) 回答者 92 名
- (4) 回答率 60.1% (実回答率：64.3%)
- (5) 実施方法 アンケート用紙に直接記入 (任意・無記名式)

Q. 女性医師としての悩みや不安は ありますか？

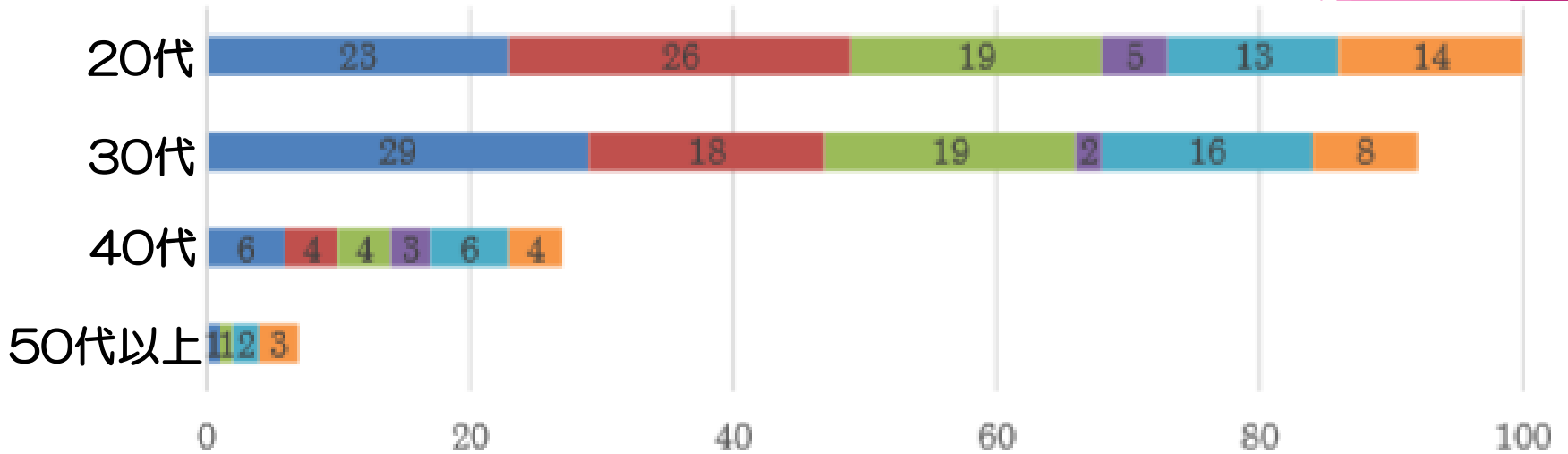
回答者全体



悩みがあると回答した職位別の割合



Q. 悩みや不安の要因は？



家事と仕事の両立

キャリアプラン (結婚・出産)

キャリア形成

配偶者の非理解・無協力

労働環境

体力

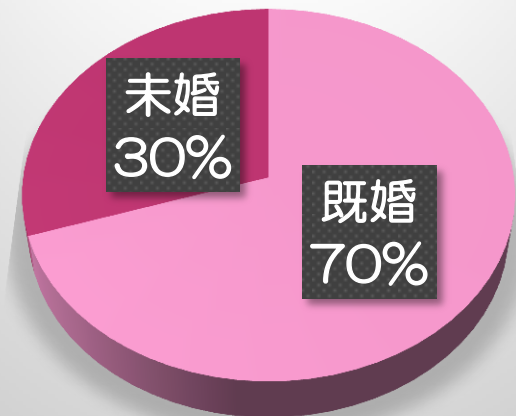
全体の70%以上

Q. 休職・離職を考慮しうる状況は？

回答者 全体の54%既婚 / 全体の43%子供がいる

1. 子育て (93%)
2. 出産 (84%)
3. 配偶者の転勤
自身の病気 (65%)

30代女性医師



子供がいる：62%

休職や離職を考慮するタイミングに
子供の年齢が関係している（81%）

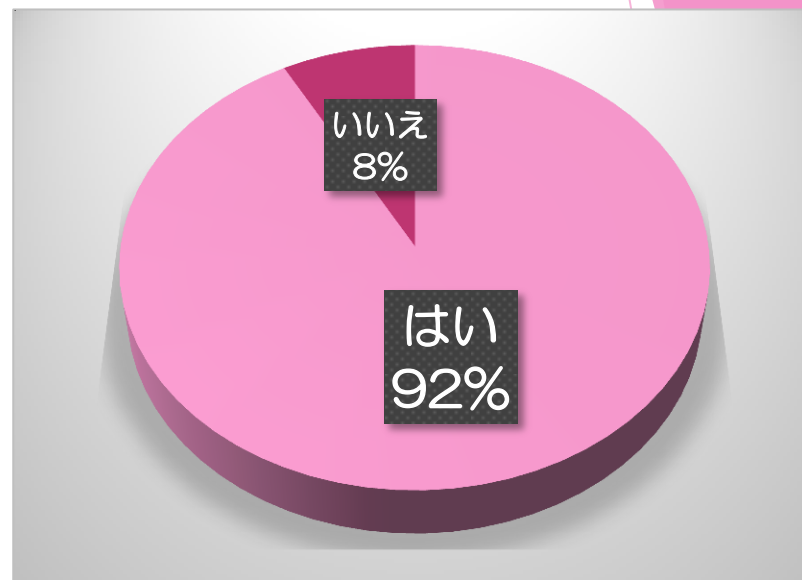


小学校入学（6歳までが大半）

Q. 育児をしながらの勤務に 困難を感じるか？

<困難な内容>

- 子供の体調不良
- 自身の体調不良
- 職場の過重な労働環境
- 学校行事への参加



<子供が病気になった時の対処法>

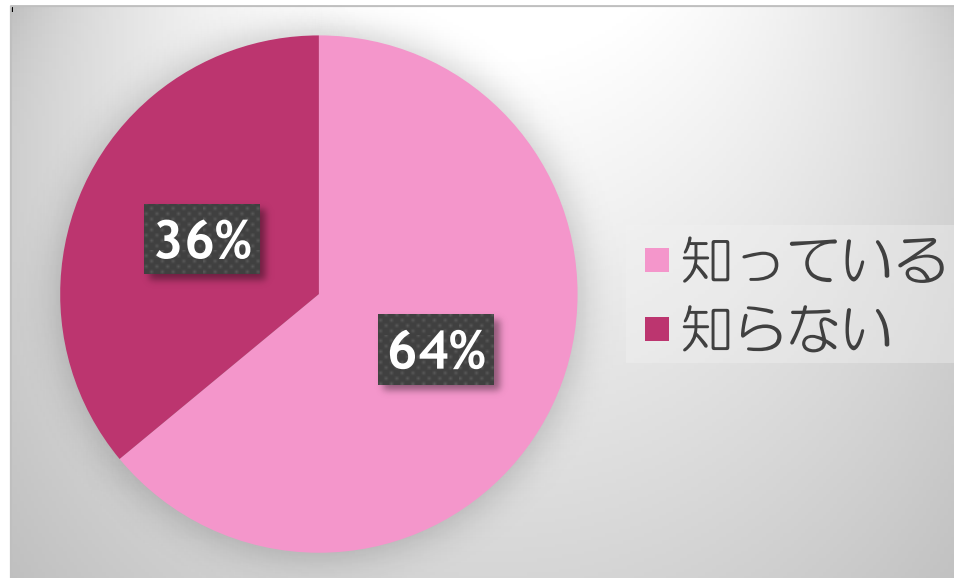
- 自分が仕事を休む
- 自分の両親、親族に預ける
- 配偶者が仕事を休む

特別短時間勤務制度について

1日6時間勤務 週4日

1日8時間勤務 週3日

(給与は通常勤務の70%)



全体の19%が制度を利用した

特別短時間勤務制度について

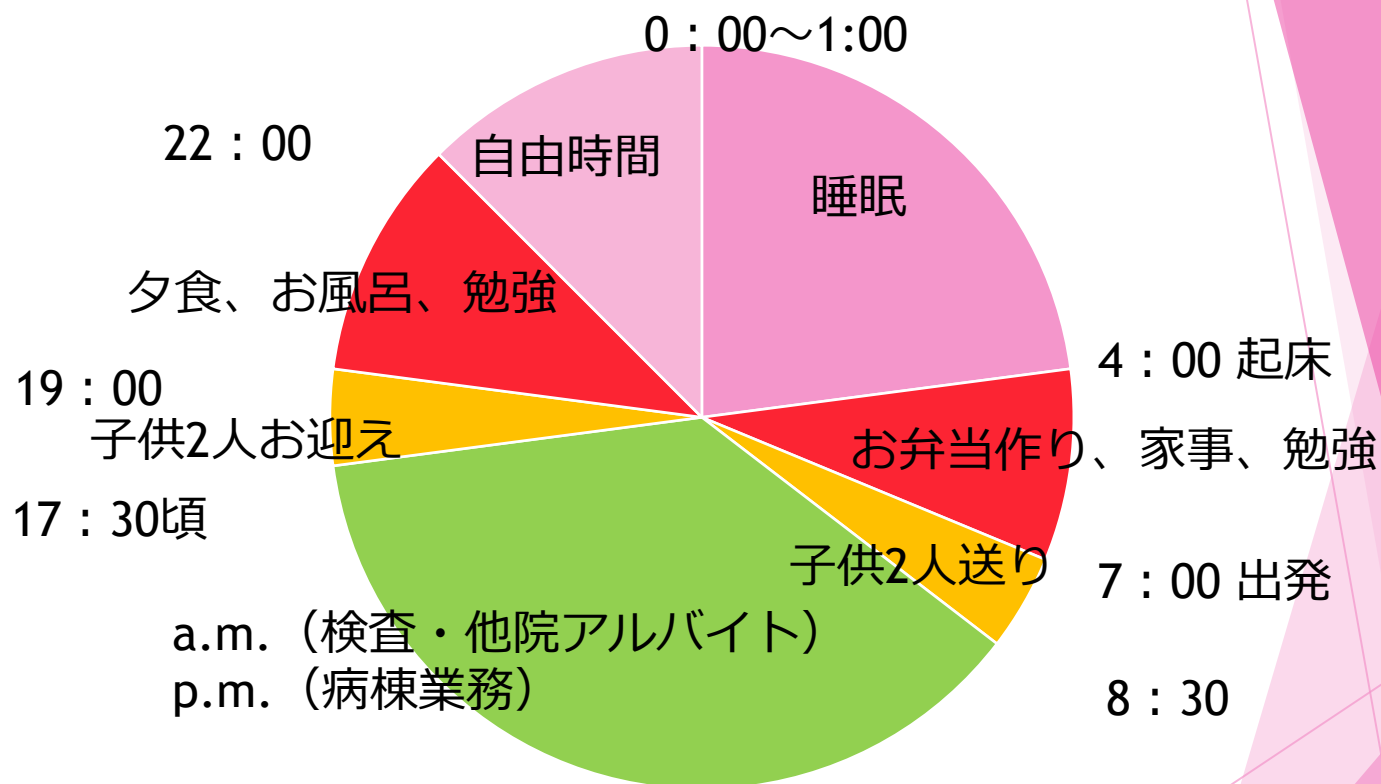
特別短時間勤務を利用してよかったことは？

- ① 15% 仕事と家庭の両立がしやすくなった
- ② 11% 子供に接する時間が増えて子供の様子を把握しやすくなった
- ③ 9% 体力的に楽になった

特別短時間勤務を利用していた期間で不自由に感じたことは？

- ① 11% 任せられた仕事を時間内にこなしきれない場合があった
- ② 10% 夕方以降のカンファレンス等医局行事に参加できなかった
- ② 10% ほかに人より早い時刻に帰宅することに肩身の狭い思いをした

特別短時間勤務を利用していた女性医師の 1日のTime Schedule



アイキッズハウス(学内保育)について



- 現在32人/子供45人が利用（女性医師13人、看護師19人）
- 女性医師全体の25%が利用した。
 - 利用した理由：職場が近いから
 - 市立の保育園は待機児童になり入園が困難
 - 希望の保育園に預けることができなかった
- 利用しなかった理由：自宅近くの保育園に入れた
- 家族のサポートがあるため不要
- 基本延長は夜9時までだが、夜間保育(午後3時から翌朝11時まで/週2回)も可能である。

Q. 勤務を継続できるような環境整備 にあるとよいと思うものは？

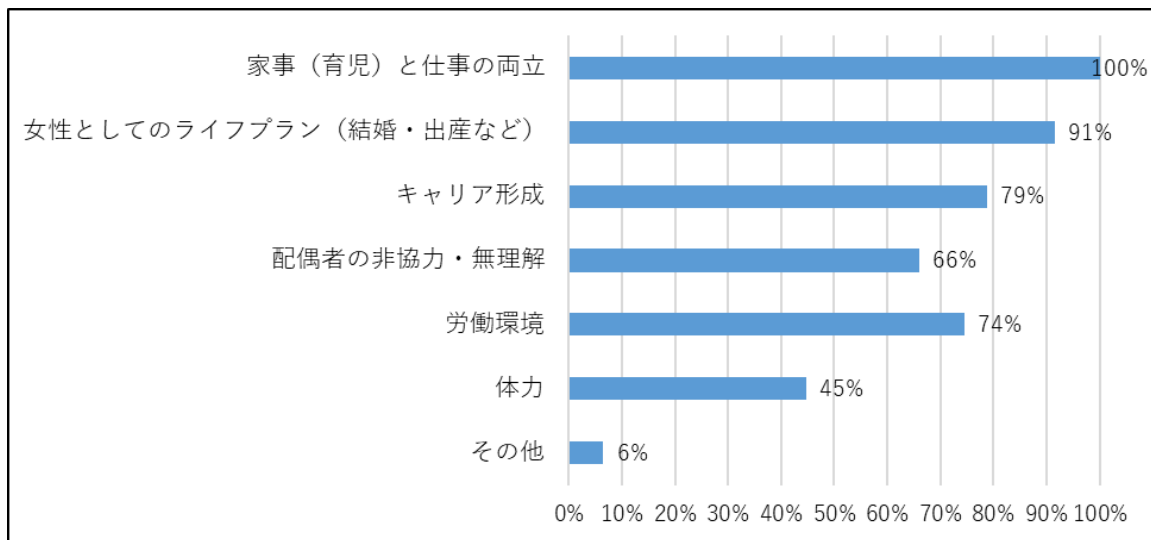
- 病児保育施設
- 敷地内の学童施設
- 施設への要望
（柔軟なスケジュール、清潔さ、
スタッフの質や対応）
- フレックス制度
- 24時間保育
- ベビーシッターの助成制度

男女共同参画に関する診療科への アンケート調査

1 アンケート実施内容

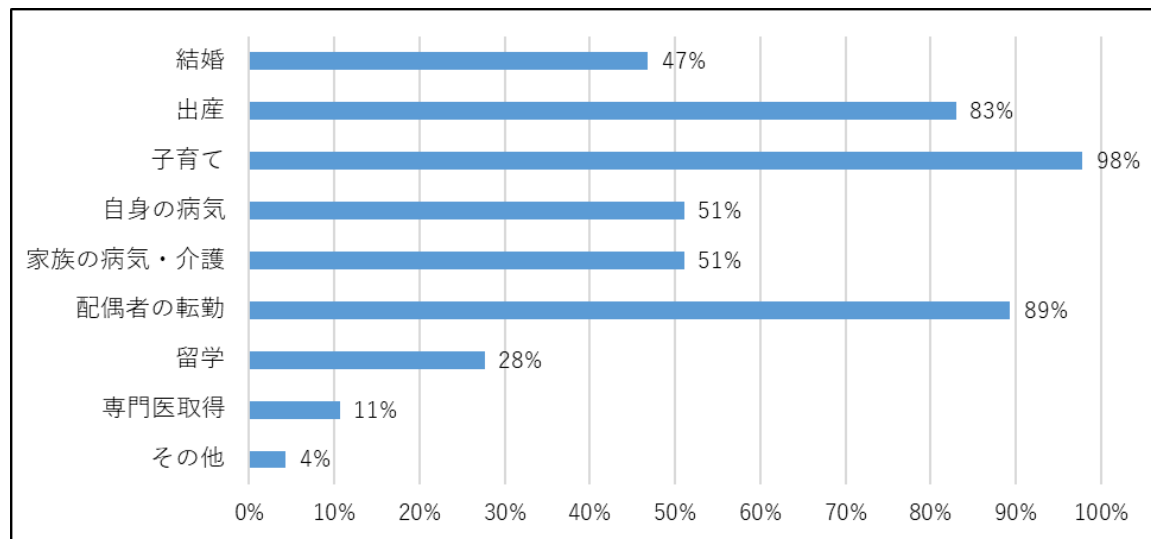
- (1) 実施期間 平成 30 年9月 25 日～10月 5 日
- (2) 対象者 診療科等 52部署
- (3) 回答者 47部署
- (4) 回答率 90%
- (5) 実施方法 アンケート用紙に直接記入（任意）

(1) 女性医師の悩みや不安について（複数選択可）



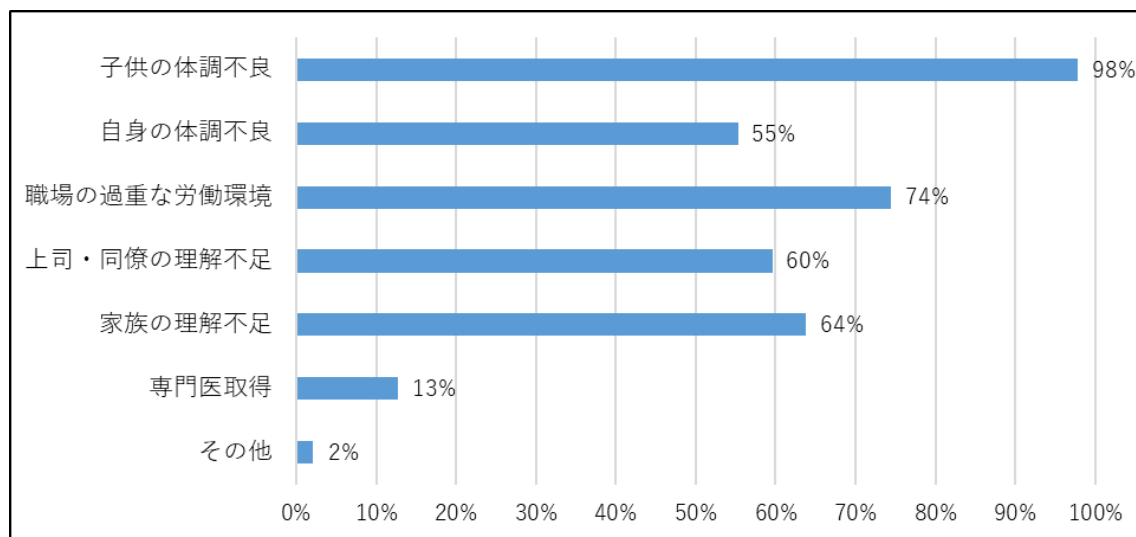
（その他の記述：様々な問題、上司・同僚の協力及び理解、セクハラ）

(2) 女性医師が休職・離職を考える理由について（複数選択可）



（その他の記述：家族の非協力）

(3) 女性医師が育児をしながらの勤務に対し困難を感じる原因について(複数選択可)



全体的な回答結果としては、女性医師と診療科の選択回答に大きな乖離はないと思われた。

(4) 大学への要望について（記述式）

□ 主な意見

- 病児保育
- フレックス制度

（その他）

- アイキッズの定員増
- 大学に残る学生を増やすための制度づくり（奨学金制度など）
- 産休・育休中のポスト流用
- 医局員の増員
- 仕事をカバーする医師への物質的インセンティブ（学内無料食事券・表彰など）
- 小学校入学後の特別短時間勤務制度の利用
- 会議等の勤務時間内実施
- IT活用，FD・SDのe-learningの活用拡大
- 休日の日直業務の管理を大学でコントロール など

大学への要望について（まとめ）

診療科・女性医師ともに病児保育施設の設置を多く望んでいる。

診療科:

フレックス制度導入，ポスト流用，
医局員の増員など柔軟な人事制度

女性医師:

子供を病院内に預けられる施設の設置

当科医局の取り組み

- ① 病棟業務は複数主治医制(3-4人で1チーム)
- ② 特別短時間勤務中でも病棟を持つが、希望があればフリーにできる。
- ③ 育休復帰後、積極的に内視鏡検査などにつきテクニカル面でのサポートをおこなう
- ④ 妊活も容認。
- ⑤ 外来、検査、外勤においてすべてバックアップ体制を整えている。
- ⑥ 男性医師も子育てサポートに必要な時があれば許容範囲で早退可能。(男性の育休も取得可能)

当科医局の取り組み

- ① 病棟業務は複数主治医制(3-4人で1チーム)

でも病棟で
る。

すべての医局員の理解と協力の上で、
支えられていることを
忘れてはならない。

- ⑤ 外来診療体制を整える。サポート
- ⑥ 男性医師も子育てと両立に必要な時があれば
許容範囲で早退可能。(男性の育休も取得可能)

大学病院としての取り組み

男女共同参画プロジェクト

H22年発足

委員会：6人（男性医師3人、女性医師3人）

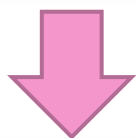
活動内容：・女性医師のキャリア相談窓口

・保育所の運営方法の見直し

・臨床系教員の育児短時間勤務の審議など

・学生・研修医に対する講演会の実施

・関連会議・セミナーの参加、アンケート調査など



愛知医科大学ダイバーシティ推進センター(仮称)

大学の附属施設としてのセンター設置

女性医師だからこそ できること・求められるもの

- ① きめ細やかなやさしさと寛容さ
- ② 女性患者さんからの需要
- ③ 柔軟な対応
- ④ 仕事仲間への感謝と配慮
- ⑤ 諦めない姿勢（競争ではなく自分との闘い）

女性医師の会・懇親会 H30.5.20(名鉄グランドホテルにて)

